

めぐみ

2023年
9月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

母娘旅行

補助教諭 小島亜希子

しばらく旅行には出かけていなかったのですが、娘たちと旅行に出かける機会を作ることができました。(コロナ禍とは全く関係なく、何年も家族旅行もしていなかった。)「いつかいつか後回しにしていたら…行けなくなるよ!」と次女に言われて、確かにそうだと思って重い腰を上げることができました。

最初は長女と昨年12月に2人で京都へ行ってきました。娘の仕事が航空会社の子会社なので、飛行機で伊丹空港へ行きそこからリムジンバスで京都へというルートで行きました。飛行機も何十年ぶりに乗り、窓側に座らせてもらい、地図をみている気分を味わえてわくわくしました。

京都を訪れるのは中学の修学旅行以来で、その時は「拝観停止」という期間と重なり、ほとんどの寺社仏閣には入れないときだったので、「大人になったら再訪したい」と思い続けた場所でした。改めて訪れることができ、感慨深く情緒豊かな景色に感動し、たくさんの寺社仏閣を訪れて心身共に浄化させてきました。

そして、今年3月に長女・次女と伊勢に行きました。娘たちにとっては再訪の地ですが、私にとっては初訪問の地。交通手段の新幹線も「何十年ぶり?」と言うとドン引きされ、車窓から見える景色、おしゃべりどれをとっても楽しい時間でした。

伊勢神宮参拝も、外宮・内宮の順に参拝でき、神々しい神様は遠く感じる拝殿でしたが、厳かな雰囲気は納得でした。鳥居があるたびに3人でお辞儀をし、「お邪魔します」「ありがとうございます」と何度もごあいさつをしてきました。

2日目の朝は、早朝5時から開店する赤福のお店に行き、目当ての赤福餅を買って散策を楽しんできました。(本当に朝5時から開いているのかを確かめに行きたかった次女にみんなで付き合った。)

この半年で訪れてみたいと思っていた場所「ベスト3」のうち、2か所に行くことができました。自分のために使える時間、成人した子どもたちと枕を並べて寝られる時間、充実した時間を過ごせたことをありがたく感じています。「また、行こうね」という娘たちの言葉を信じて、「次はどこがいいか…」と息を馳せています。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「のびのびと」

今月のねがい

- 身体を十分に動かして、挑戦する
- 夏の経験を通して、遊びが広がる
- 目に見えない神様の存在を感じる

学年別のねがい

- (1歳) 模倣して遊ぶ
- (2歳・満3歳) 気持ちを表す
- (年少組) 友だちの存在を強く感じるようになる
- (年中組) 友だちの思いを知る
- (年長組) さまざまな感情を経験し、乗り越えようとする

ひとこと

たくさんプールに入ったり、セミを見つけたり、遠くに出かけたり、さまざまな経験をした夏になったことでしょう。暑かった夏を乗り越えて、一回りも二回りも成長し、いろいろなことに挑戦をする姿がたくさん見られることを楽しみにしています。友だちの存在がさらに気になってくる9月。刺激を受けたり、与えたり、お互いの思いに触れながら自分の世界を広げて欲しいと思います。そしてのびのびと、それぞれのペースで成長していきますように。

今月の聖歌

「みんなであたおう」

今月の歌

「こぎつね」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	金	全体礼拝
2	土	就労家庭保育実施日
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	年長臨時クラス会
7	木	年中参観・懇談・交流会 アルミ缶回収
8	金	全体礼拝 ↓
9	土	就労家庭保育実施日
10	日	
11	月	年少参観・懇談・交流会 保育部個人面談週間(～15日)
12	火	年長参観・懇談・交流会
13	水	
14	木	おはなしの会(年中長組)
15	金	全体礼拝
16	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会③
17	日	
18	月	敬老の日
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	全体礼拝
23	土	秋分の日
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	9月生まれ誕生会
28	木	
29	金	全体礼拝
30	土	就労家庭保育実施日



チャプレンのページ

後の世代への責任



あなたたちの子孫に語り伝えよ。

子孫はその子孫に その子孫は、また後の世代に

ヨエル書 第1章3節

今夏は最高気温更新が続出し、酷暑を通り越して危険な夏と言われる日々となりました。すみれ組の皆さんと草津キャンプへ行った際、川越は37度でしたが、草津は19度でした。川越で過ごしている皆様には申し訳なく思いつつも、暑さから解放されてホッとしました。

この危険な暑さの原因は地球温暖化であると指摘されています。大気中の二酸化炭素の濃度が増すことにより、夏の暑さがどんどんひどくなっているとのこと、そういえば私が中学生だった頃、夏の最高気温は33度ぐらいで34度になると大変だと言われていたのを思い出します。二酸化炭素の排出量を減らし、地球環境を回復させていこうという取り組みが全世界で繰り返されていますけれども、これはかつての環境を取り戻していこうというよりも、危険な環境を作り出してしまった責任の一端は私たちの世代にあり、それを未来の世代に引き継がせず、よりよい環境を残す責任が私たちにあるからではないでしょうか。

冒頭の聖書の言葉は、旧約聖書の最後のほうに収録されている、ヨエル書という短い書物の一節です。後の世代に語り伝える責任について書かれている個所ですが、よいこと、誇らしいことは語り継がれやすいけれども、都合の悪いこと、失敗してしまったこと、改善すべき責任についてはなかなか語り伝えられず、その結果、同様の失敗が歴史の中で繰り返されて行ってしまう。よいことだけでなく、伝えるににくいことや失敗してしまったことを率直に伝えることが大切だと言っているのです。

本年は8月6日が日曜日でしたが、原爆死没者慰霊碑石棺の正面には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから」と刻まれていました。また日本国憲法第9条に、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と書かれています。

しかし北朝鮮によるミサイル発射、東アジア周辺国の緊張が指摘されるたびに、日本も武力を持つべきであると考える人が過半数になっていると指摘され、戦争で学んだことがどこまでも大切なのか、はたまた状況変化の中でその学びは変える必要があるのか、8月になると熱心に議論が交わされています。

私たちが取り組む子育ては、失敗を含めた経験の上に成り立っています。子どもたちに、よいところばかりを見せて都合の悪いところを隠そうとするならば、それは必ず子どもに見破られてしまうのを改めて覚えたいと思います。

(鈴木 伸明)

特集 草津キャンプ 7月19~21日

最近、感じている子どもたちの変化は、草津キャンプに行くことを楽しみにしている子どもが多くなり、不安を訴える子どもが減ったことです。年長組が草津に行くのを園庭で見送った年中組の時から、1年後のこの日を心待ちにしている子もいました。キャンプ中はよく体も頭も心も使い、ぐっすり眠る子どもたちでした。草津での3日間をレポートしました。

新しい出会い～ともに過ごす楽しさ～

今年のキャンプは例年と違う点の一つ。それは、子どもたちにとって新しい出会いがあったことでした。キャンプ1・2日目は私学事業団の方が、加入者向け広報「共済だよりレター」に掲載するため、初雁幼稚園の草津キャンプについて取材に来てくださっていたのです。

1日目、マーガレット館に着くとさっそくカメラマンの坂本さん、向山さんが待っていました。松浦先生からマーガレット館のトイレは詰まってしまうことがあるため、必ず大の方で流す約束を聞きました。「漢字の大がわかるように、みんなで大を表してみよう！」というのと次々に両手足を大きく広げる子どもたち。その瞬間をすかさず写真に収めてくれました。シャッターの音にみんなは「なんで撮ってるんだ！」とツッコミながらも、お二人が持つかっこいいカメラに興味津々。「近すぎて映らないからもう少し離れてね」と言われるほど、カメラのレンズを覗き込んでいました。きっとドアップの写真がたくさん残っているのではないかと思います。

2日目の頌徳公園では鬼ごっこに誘い、全力で走り、服が汚れるまで一緒に遊んでくださいました。行きのバスレクで名前入れ替えクイズを楽しんでいたみんな。一心くんと蒼唯くんの名前を混ぜて入れ替えると「ししまいおとうさんいっきかあ」になるのがおもしろくて、キャンプ中ずっと盛り上がっていました。いつのまにかカメラマンさんのことを「ししまいおとうさん」と呼んでいました。みんなはある意味お父さんのように思っていたのかもしれませんが。他にも、西の河原で流されかけたサンダルを濡れながら靴のまま川に入って取りに行ってくださいたり、「誰かの荷物がない！」となれば一緒に探してくださいたり、撮影の仕事だけでなく、一緒に過ごしながら子どもたちの生活の手伝いもして下さり、引率側としても感謝でいっぱいでした。

今年のすみれ組は、子どもらしい子たち。今を生きるのに全力で、楽しい時は笑い、怒る時は怒り、泣く時は思いっきり泣く！どんなときも自分の感情がそのまま表情や行動に表れます。そしてそんな姿を普段から互いに受け入れ合っているように思います。大人でも難しいことですが、知らず知らずのうちにみんなはそれができるようになっていることに気付かされました。受け入れてもらえる相手、環境があるからこそ、ありのままにいられて、その中で今度は相手にもその気持ちを向けられるようになります。こうして人と人とが繋がって行くのだと感じました。

今までの園生活で、幾度となくぶつかり、さまざまな気持ちを経験して育まれた絆や互いへの安心感があるからこそ、普段生活している場所でなく、初めて行く場所、初めて会う人がいる環境でも、自分らしくいられるのだらうと思いました。

あらためて、草津キャンプの意義や集団生活の大切なことを私自身みんなに学ばせてもらった3日間でした。そして、そんなみんなの楽しさの輪とありのままの気持ちが、きっとカメラマンのお二人にも伝わっていたからこそ、一緒に過ごすことを楽しんでくださったのではないかと思います。みんなの強みを大事に、残りの幼稚園生活も自分たちらしく歩んで行って欲しいと思います！

西の河原～本物を五感で楽しむ姿～

「よし、西の河原に行こう！」と言い、外に出ると雨。行けるか心配そうな子どもたちでしたが、雨具を着て、途中のお土産屋さんで雨宿りもさせていただき、がんばって西の河原に向かいました。西の河原につくころには雨が弱まり、大はしゃぎでした。今まではホールの積み木や園庭で「西の河原ごっこ」だけでしたが、実際に来てみると川の水が思ったより冷たかったり、鬼の茶釜はグツグツと水面が動き、近くに流れる水の熱さに「熱いっ」と手を引っ込めるほど驚いたり、発見することがたくさんありました。

西の河原は温泉の匂いがして、「温泉みたいな匂いがする」「湯気がでてる」と口々に気づいたことを知らせます。川の流れが緩やかで暖かいところでは、女の子たちが温泉気分であったりと入っています。川に流されたことによってできるさまざまな大きさや形の石を見つけて、「これはハートの形だね!」「これは緑色だよ」と嬉しそうに見せてくれました。また別のところでは宝石屋さんが開店していて、売っている物もお金のやり取りもすべて石でしたが「ルビーいかがですか」「緑の宝石は珍しいですよ」と言いながら遊んでいる様子に、あらためて創造力とどこにでも開店できるお店屋さん遊びにおもしろいなと思いました。

川の流れが早いところでは子どもの肩ぐらいまである石に登って「うおおお!」とライオンのように雄叫びをあげていたり、滝修行のように水に打たれたりダイナミックな遊びを楽しんでいました。その中、石に向かって黙々と作業をしている子が。枝や葉っぱをひたすら石に張りつけているので「なにしているの」と聞くと「いしじーさんだよ!」と教えてくれました。よく見ると顔があり、西の河原に石のおじいさんを誕生させていました。(写真参照)

キャンプ前から西の河原を楽しみにしていた子どもたちでしたが、その後キャンプノートや葉書に「さいのかわらがたのしかった」と書いていました。その姿に楽しい思い出がまた1つのできてよかったですと感じました。



どきどきワクワクな熱帯圏!

2日目の朝食を終えた後には、熱帯圏へ行きました。「どんな場所なんだろう!」と子どもたちも私もワクワク。中に入ってみると、ワニの剥製にまたがることができたり、恐竜のたまごの化石に触ったり、たくさんの生き物を身近に感じられて、楽しめる場所でした。「えっ触ってもいいの!?!」と、びっくりしつつ、みんなの目がキラキラと輝いていました。

猿山でお猿さんたちにエサをあげるときには、「あのお猿さんがまだ全然もらってないよ」「赤ちゃんがいるからそっちに投げて!」と子どもたち同士で会話しながら、エサをあげていました。また、珍しい生き物がたくさんいるドームの中に入ると、カピバラやワニ、ヘビやキツネザルなどの動物がたくさん!ふれあえる動物もたくさんいました。熱帯圏の園長さんが、ご好意で大きなヘビやリクガメをケージから出してくださり、「触っていいよ!」とのこと。大喜びでタッチしにいく子もいれば、おそるおそる手を伸ばす子もいて姿はさまざま。でも、「かわいい〜」「ちょっと冷たい」などと楽しそうな友だちの姿を見て、たくさんの子がタッチに挑戦できました。

おうちの人と離れて、どきどきワクワクしながら草津へやってきた子どもたち。友だちと一緒に過ごす楽しさを感じつつも、時々おうちの人を思い出したり、寂しさを堪えてみたり…きっと子どもたちにしかわからない、いろんな気持ちを体験したことでしょう。そんな子どもたちが、かわいい動物とふれあって、子どもらしくはしゃいで楽しむ姿を見て、私も嬉しい気持ち

ちいっぱい、一緒に楽しませてもらいました。

お風呂～ピカピカ！4タイプの貸切風呂～

草津キャンプ2日目午後、聖マーガレット館から草津バスターミナルへ向かって徒歩5分ほどいったところに、松乃井旅館があります。草津キャンプ2日目は松乃井旅館がお休みの日で、すみれ組の子どもたちのためにお風呂を貸し切りで使わせていただくことができました。

大勢の人たちで入るお風呂や露天風呂は子どもたちも大好きなのですが、お風呂で走り回ってすべってしまったり、一人で目の届かないところへ行ってしまうこともあるため、今回は松乃井旅館のご協力をいただくことになったのです。

松乃井旅館のお風呂は、男湯と女湯の二つでしたが、最近、4タイプの貸切風呂に改造されたとのこと、自宅とは違うお風呂の様子に子どもたちも興味津々で温泉を楽しむことができました。

自宅のお風呂は湯温調節も自由自在にできることが多くなりましたけれども、温泉は天然の温度であり、調節をすることができません。この日のお風呂は子どもたちには少し熱かったようですが、それでも入ってみようとする子どもたちの姿に感動しました。人間、知らない間にどンドン石橋をたたいても渡らなくなってしまうのだと思わされたひと時でした。

温泉は少し熱かったですが、温泉は湯冷めすることがないのに気づいた子どもはどれぐらいいたでしょうか？

お風呂は男女別でグループごとに入りました。親がいない中でお風呂へ入った経験のある子どもが大半でしたが、私が担当した男の子たちのグループでは誰も泣いたり、親を思い出して手を求めたりする子はおらず、また着替えなども自分たちでしっかりとこなすことができました。

温泉後、さわやかな風を感じつつ、聖マーガレット館に戻りました。

休業日にもかかわらず、貸し切りでお風呂を使わせてくださった松乃井旅館さんに感謝いたします。

暗闇探検～子どもたちの新たな一面が～



2日目の夜、カレーを食べ終えた子どもたちは水道の前に集合しました。何が始まるのかと、楽し気な子どもたち。実は子どもたちには知らせていないお楽しみの時間でした。

さっそく集まった子どもたちに、3つのお知らせをしました。①今からマーガレット館の探検をすること、②2階の部屋にチケットがあるから、1人1枚取って戻ってくること、③そのチケットは3日目の帰りのスペシャルおやつのお引換券だということ。「なんだ簡単じゃん！」と言う子もいれば、話を聞いただけできつと暗

いということがわかり泣く子もいました。

中川ひろたかさんの絵本「おばけなんてこわくない」を読み、おばけはいないことを確認し、みんなを守ってくれるサイリウムを配り、明るいうランタンを持って出発です。(なんとこま

で 30 分以上…) 出発は立候補制で、ペアで話し合い、行けるタイミングで行きます。まず最初に行った 2 ペアは意気揚々と出発！待っている子たちで耳を澄ませていると、大きな悲鳴が！しばらくして帰ってきたかと思うと、涙を浮かべている子もいました。話を聞くと「音楽が怖かった」とのこと。どうするか話し合い、音楽を流していた先生に電話をかけ「怖くない音楽にしてください」と直接交渉しました。その後は泣いていた子も「行ってみるね」と自ら伝えに來たり、帰ってきてから他の泣いている子に「大丈夫。怖くなかったよ。おぼけもいなかった」と伝えてあげたり、「先生も一緒に来てほしい」と自分で考え伝えられたりと、子どもたちの新たな一面が見られたように感じました。どうしても行く気持ちになれなかった子も、自分で考え、最後に「すみれのみさんと先生と、全員でだったら行けるんだけど、一緒に行ってくれる？」と伝えると、快く「いいよー！」と返事をし、みんなで出発。無事に全員がチケットを取れました。

例年よりかなり時間がかかった暗闇探検ですが、自分たちで考え、友だちのことを思いやるなどさまざまな姿が見られ、子ども同士の絆も深まったように感じます。この経験が、2 学期にいろいろな場面で生かされてほしいと願っています。

台所のカウンターから～子どものつぶやき～

台所で食事の準備・片づけをしていると、いろいろな声が聞こえてきます。食堂と台所はカウンターでつながっていますが、子どもたちからすると別部屋。子ども同士の自然なやりとり思わず笑ってしまいます。

食事当番は水筒を置いて席を決めます。「〇ちゃんはここで、〇ちゃんはここ…」嬉しそうに声を出しながら置かれる水筒は、ピンク色や紫色ばかり。適当に水筒を置く当番もいれば、女の子同士で座れるように考えながら水筒を置く当番もいました。

お風呂上がりの夕食前は、「〇〇先生っていいにおいするよね」「みのりちゃん（松浦司祭の娘さん）って人気だよ」…で盛り上がる女の子たち。お風呂上がりの香りなのか、カレーの食事の時に近くに座りたいのかしら、など想像しながら聞いていました。

就寝前、歯磨きができず困っている子がいると、近くにいた男の子が「歯磨きってこうするんだよ」と得意げに披露！お礼を言われて気分が良くなったのか、その男の子も寝る前の不安げな表情がなくなり、困っている子がいると「大丈夫？」とすすんで声を掛けていました。

緊急事態では台所にいても呼ばれます。「トイレ、一人じゃこわいからいけない。でも、もれちゃう…」という時もあれば、「〇ちゃんがおしっこもれちゃった」と知らせに來てくれる子も。渡り廊下を一人で歩いて助けを呼びに行く怖さも忘れて、必死に知らせしてくれるその気持ちが嬉しかったです。

最終日のバス発車後、「あーよかった！これでお家に帰れる。知らない場所は苦手だもん」とつぶやいた子。3 日間よく食べて、よくお話して、よく笑って、よく寝た、元気いっぱいそんな気配など全く感じなかった子だった分、衝撃の一言。きっとどの子もこの子と同じような気持ちで過ごしていたのだろうなと思いました。

毎年キャンプに行っている私たちでさえ、キャンプ前は緊張します。ましてや家族から離れて初めてキャンプに参加する子どもたちの不安はいかほどのものだったことか。川越に戻ると家族の方が横断幕とメダルで子どもたちを出迎えてくれますが、まさに金メダルもののがんばりです。

草津キャンプの良さは、日常から離れることで、非日常に身を置き、そこで過ごす人の思いと同時にそこにいない人に思いを寄せられることにあると思います。それにより、「相変わらず」の日常にありがたみを感じることができます。子どもたちはそれぞれに帰る場所があること、自分を待っている人がいることのありがたさを痛感したことでしょう。最後になりますが、

私たちが信じて、大事なお子さんを預けてくださった保護者の皆様に感謝しております。

わが家のまど



(287) 「ぜんぶ2倍に！」

たんぽぽ組担当教諭 鷲巣 春香

2人暮らしを始めてから約1年。私は、大ざっぱで泣いたり笑ったり分かりやすい性格なのですが、5つ歳上の夫は、常に冷静でとっても丁寧な性格。性格が真逆な上に、これといった共通の趣味も少なかったので、「どんな暮らしになるんだろう？」と思っていました。最近、一緒に韓国ドラマを観たり、サッカー観戦をしたり、2人で楽しめることが増えてきました。中でも楽しいのは、やっぱりおいしいものを食べること！もともと食べることはお互い大好きで、それがきっかけで結婚式もレストラン挙式を選んだくらい！（試食ができたり、デザートのお持ち帰りがあったりいいことたくさんでした！笑）一緒に夕飯を作ったり、先日はタコスパーティーをしたりと、食べてばかりいます！笑

私は学生時代に、小料理屋でバイトをしていたのですが、その時に常連のお客さまに、「結婚してパートナーができると、価値観が2倍になるよ」と言われたことがあります。その時は、すごいなあ…くらいに思っていたのですが、最近はその言葉の意味がほんの少しだけ分かるようになってきた気がします。一緒に暮らしていても、相手の考えていることがよくわからないときがありますが、相手を知ろうとするだけでも、少し自分の考えも広がったような気がします。新しい価値観が見つかったおかげで、前よりも「まあ、いっか！」とか「なんとかなるよね！」と思えるようになって、柔軟になれたことを嬉しく思います。



今月の聖書のおはなし



☆ 9月1日「ヨセフ物語Ⅰ売られたヨセフ、夢をとく」 創世記37:1~36、39:1~40:23

ヤコブは、兄エサウの殺意を知り逃亡します。逃亡先で苦労を重ねたヤコブは結婚して12人の男の子を授かります。そして11番目のヨセフを溺愛します。10人の兄たちはそんなヨセフを妬みます。不思議な夢の話をするヨセフはますます兄から憎まれ、ある日、大きな穴へ落とされてしまいます。ヨセフは通りかかった商人に引き上げられますが、エジプトへ奴隷として売られてしまいます。しかし、神さまがヨセフのそばで見守っていたので、ヨセフは力を発揮しました。誤解され、牢屋に入れられましたが、神さまが共におられ、ヨセフは活躍できるようになるのです。

☆ 9月8日「ヨセフ物語Ⅱファラオの夢をとく、エジプトへ行く兄弟」 創世記41:1~44:17

ヨセフは、牢屋の中でエジプトの王さまの夢の謎を解きました。王さまはエジプトの危機を救ったので、ヨセフを宮廷の責任者としました。エジプトはヨセフの夢を解く言葉の通り、大飢饉に見舞われました。けれど、ヨセフの言葉の通り、豊作の時に備蓄をしていたため、世界各地の人々が、エジプトに食料を求めに来ていました。ある日、ヨセフの元に10人の兄たちが食料を買いにやってきます。ヨセフは兄たちに気がつきませんが、兄たちはヨセフに気づきません。自分をエジプトへ売った兄たちです。ヨセフは彼らの心根を試しました。

☆ 9月15日「身を明かすヨセフ、父との再会」 創世記44:18~47:12

ヨセフは、兄たちが改心していることを知って、感極まって自分の身を明かします。驚く兄たちにヨセフは「私をここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」と話します。そして父や兄弟の家族を飢饉にあえぐ故郷からエジプトへ呼び寄せ、良い土地に住まわせたのでした。

☆ 9月22日「モーセ物語Ⅰモーセの誕生」

出エジプト記1:1~2:25

ヤコブの一族がエジプトに移住して長い年月が経ちました。イスラエル人が増え、王は重労働を課しました。さらにイスラエル人の勢が増すことを恐れたエジプトの王は、もし男の子が生まれたら一人残らず生かしておいてはいけないという命令を出しました。イスラエル人のレビの家系に男の子が生まれ、密かに育てていましたが隠しきれなくなりました。そこで籠に入れ、葦の茂みに浮かべておきました。そこに王女が水浴びに来てその子を見つけ、育てることにしました。名前をモーセと名付けました。

☆ 9月29日「モーセ物語Ⅱ十の災い」

出エジプト記 3:1~11:10

成人したモーセは自分と同じイスラエル人が重労働に就き、エジプト人にひどい扱いを受けているのを見て、そのエジプト人を打ち殺してしまいました。追われる身となったモーセでしたが、イスラエルの人々の叫び声は神さまに届き、神さまがモーセの前に現れました。神さまはモーセを王のもとに遣わし、イスラエルの人々をエジプトから連れ出すことをお告げになりました。兄弟のアロンと一緒に王のもとに行ったモーセでしたが、王は心を頑なにし、なかなか人々を去らせませんでした。そこで神さまは、モーセを通して驚くべき業を行ったのでした。